

October 3, 2022

**【前日の為替概況】予想を上回る米インフレ率でドル高 対円 144.81 円まで上昇**

30日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は144.74円と前営業日NY終値(144.46円)と比べて28銭程度のドル高水準だった。日本時間夕刻に一時144.21円と日通し安値を付けたものの、前日の安値144.07円が目先サポートとして働く買い戻しが進んだ。日米金融政策の方向性の違いから押し目買い意欲も旺盛で、4時30分過ぎに一時144.81円と日通し高値を更新した。

米連邦準備理事会(FRB)が金融政策を判断するうえで重視している8月米個人消費支出(PCE)価格指数(デフレーター)で変動が激しい食品とエネルギーを除くコアデフレーターが前年比4.9%上昇と予想の4.7%上昇を上回ったことも相場の支援材料となった。米10年債利回りは取引終盤に3.83%台まで上昇した。ただ、政府・日銀による円買い介入への警戒感から節目の145円には届かなかった。市場では22日の円買い介入が行われた145円台が防衛ラインとして意識されている。

ユーロドルは3営業日ぶりに小反落。終値は0.9802ドルと前営業日NY終値(0.9815ドル)と比べて0.0013ドル程度のユーロ安水準だった。高インフレと主要中銀の大幅利上げ長期化がユーロ圏景気の後退懸念を強めており、ユーロ売り・ドル買いが出やすかった。22時30分前には一時0.9735ドルと日通し安値を更新した。ただ、9月米シカゴ購買部協会景気指数(PMI)や9月米消費者態度指数(ミンガン大調べ)確報値が予想を下回ったことが分かるとドル売りで反応。24時30分前には0.9818ドル付近まで下げ渋る場面があった。市場では「月末・四半期末のロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングに絡んだユーロ買いのフローが観測された」との声も聞かれた。

オセアニア通貨は軟調だった。一時は130ドル超上昇したダウ平均が500ドル超下落するなど、米株式相場が軟調に推移するとリスクセンチメントに敏感なオセアニア通貨に売りが出た。豪ドル米ドルは0.6392米ドル、NZドル米ドルは0.5591米ドルまで売られたほか、豪ドル円は92.52円、NZドル円は80.95円まで値を下げた。

ユーロ円は小幅ながら3日続伸。終値は141.88円と前営業日NY終値(141.81円)と比べて7銭程度のユーロ高水準。22時30分前に一時140.79円と日通し安値を付けたものの、そのあとはドル円の上昇とユーロドルの下げ渋りにつれた買いが入り142円台前半まで持ち直した。

**【本日の東京為替見通し】「神田シーリング」の有無や日銀短観で円安の影響を見極める展開か**

本日の東京外国為替市場のドル円は、9月調査の日銀短観で円安の影響を見極めた後は、145円台に「神田シーリング」が設定されているのか否かを見定める展開が予想される。

8時50分に発表される9月調査の日銀短観での大企業製造業の業況判断指数(DI)は+11と予想されており、6月調査+9からの改善が見込まれている。予想通りに改善していた場合は、黒田日銀総裁の「円安は日本経済にプラス」との見解を裏付けることになり、円売り要因となる。

ドル円が上昇した場合、9月22日の本邦通貨当局によるドル売り・円買い介入以来到達していない145円台に「神田シーリング」が設定されているのか否かを確認することになる。

9月30日、財務省は、9月22日の円買い介入金額が2兆8382億円だったことを公表し、1998年4月10日の2兆6201億円を上回る過去最大規模となったことを明らかにした。

同月29日、米連邦準備理事会(FRB)は、海外・国際金融当局(FIMA)向けレポファシリティーから、28日時点で240億ドルの減少を公表したことで、本邦通貨当局のドル売り介入金額約195億ドルが含まれていたのかもしれない。日銀のレポファシリティーへのドル預入額は約1360億ドル規模と推定されており、ドル売り・円買い介入資金には余力が残されている。

本邦通貨当局は、ドル円が100円を下回るようなドル安・円高局面では、本邦輸出企業の為替差損を少なくするために、外国為替資金証券(為券)で円資金を調達して、ドル買い・円売り介入を行い、購入したドルを米国債で運用するという「円・キャリートレード」を行ってきた。そして、ドル買い介入金額は、介入時点の実需の円買いに相当する貿易黒字額が目安とされた。

今年の急激なドル高・円安により、貿易赤字が過去最大規模に拡大しつつある。本邦輸入企業の為替差損を少なくするために、実需の円売りに相当する貿易赤字額を目安とする大規模な円買い介入が続いていくのか否かを見極めることになる。そして、145円台に防衛ラインとしての「神田シーリング」が設定されているのか否かも探っていくことになる。

なお7月時点での米国債保有高は、世界最大の1兆2343億ドルとなっており、持ち値は104円程度と推計されている。144円での含み益は50兆円程度になる。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

- 08:50 ☆ 日銀・企業短期経済観測調査（短観、9月調査）
- ☆ 大企業製造業の業況判断指数（DI、予想：11）
- ◎ 大企業非製造業の業況判断指数（DI、予想：13）
- ◎ 大企業製造業DI・12月見込み(予想：11)
- ◎ 大企業非製造業DI・12月見込み(予想：15)
- ◎ 大企業全産業設備投資計画（前年度比、予想：18.8%）
- 08:50 ◇ 日銀金融政策決定会合における主な意見（9月21-22日分）

### <海外>

- 15:30 ◎ 9月スイス消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.1%）
- 16:00 ◇ 9月トルコ製造業購買担当者景気指数（PMI）
- 16:00 ◎ 9月トルコCPI（予想：前月比3.15%/前年比83.50%）
- 16:30 ◇ 9月スイス製造業PMI（予想：54.6）
- 16:50 ◎ 9月仏製造業PMI改定値（予想：47.8）
- 16:55 ◎ 9月独製造業PMI改定値（予想：48.3）
- 17:00 ◎ 9月ユーロ圏製造業PMI改定値（予想：48.5）
- 17:30 ◎ 9月英製造業PMI改定値（予想：48.5）
- 22:05 ◎ ポスティブミック米アトランタ連銀総裁、あいさつ
- 22:45 ◎ 9月米製造業PMI改定値（予想：51.8）
- 23:00 ☆ 9月米サプライマネジメント協会（ISM）製造業景気指数（予想：52.2）
- 23:00 ◇ 8月米建設支出（予想：前月比▲0.3%）
- 23:30 ◇ 9月メキシコ製造業PMI
- 4日 03:00 ◎ 9月ブラジル貿易収支
- 4日 04:10 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
- 中国（国慶節）、韓国（建国記念日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

30日 05:49 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁

「多くのことを行うと過度の引き締めにつながる可能性がある」

「十分な措置が取られたと示す兆候を監視する必要がある」

「経済を持続可能な経路に乗せるために利上げが必要」

「予想されるFRBの利上げは必要かつ適切」

「FRBの目標を達成するために深刻な景気後退を引き起こす必要はない」

「年末までに4-4.5%・2023年は4.5-5%とする政策金利予想の中央値は妥当」

「実際の金利動向はデータ次第」

「利上げ後、少なくとも23年を通じて金利据え置き見込む」

30日 22:27

「インフレをさらに緩和する必要」

「予想される利上げはインフレ率を低下させる」

「追加利上げは正しい。どこまで引き上げるかはデータ次第」

「決まったコースはない」

「住宅市場が冷え込む中、利上げの恩恵が見え始めている」

30日 21:25 プーチン露大統領

「ロシアに新たな4つの地域が誕生した」

「本日、併合書類に署名する予定」

「軍事作戦で倒れた人々はロシアの英雄」

「ロシアはソビエト連邦を復活させようとはしていない」

「交渉する用意がある」

30日 22:04 ブレイナード米連邦準備理事会(FRB)副議長

「FRBは早すぎる政策巻き戻し回避にコミット」

「政策金利はしばらくの間、抑制的な水準を維持する必要」

「現在のところ、FF金利のピークの予測には幅があり、不確実性が高い」

1日 00:26 ビスコ・イタリア中銀総裁

「過度で急速な大幅利上げはリセッションのリスク」

「経済見通しの大幅な悪化が懸念材料」

「イタリアは危機の間、財政支出に慎重でなければならない」

1日 01:11 クノット・オランダ中銀総裁

「インフレのため今後も利上げを継続する」

1日 01:47 バーキン米リッチモンド連銀総裁

「インフレ圧力が緩和している有望な兆候はあるが、データに反映されるまでには時間がかかる可能性」

「FRBは金融引き締め政策を維持し、時期尚早に勝利宣言しないようにする」

1日 03:11 バイデン米大統領

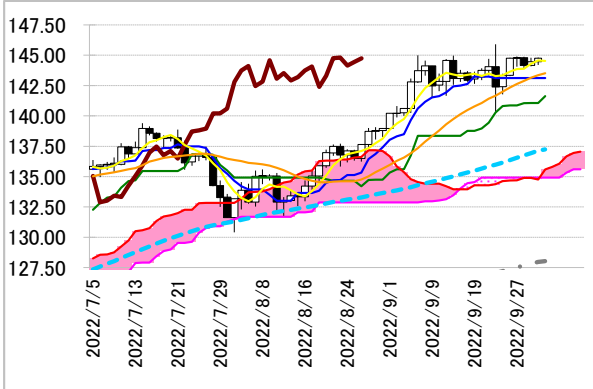
「ノルドストリームのパイプラインのガス漏れは意図的な破壊工作」

1日 04:30 サリバン米大統領補佐官

「ロシアによる西側諸国のインフラ攻撃の可能性を懸念している」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

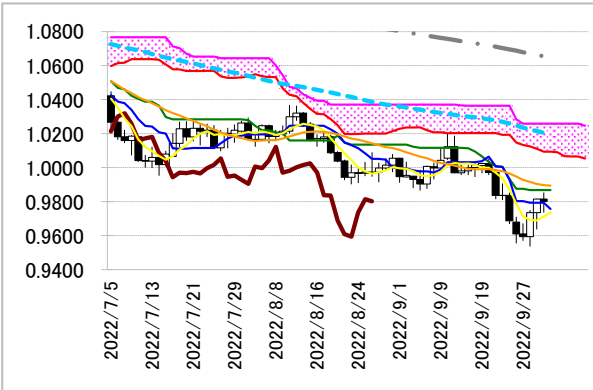


### <ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。孕み線で反発して、転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	146.48(1998/8/14 高値)
レジスタンス 1	145.90(9/22 高値)
前日終値	144.74
サポート 1	143.13(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	141.64(日足一目均衡表・基準線)

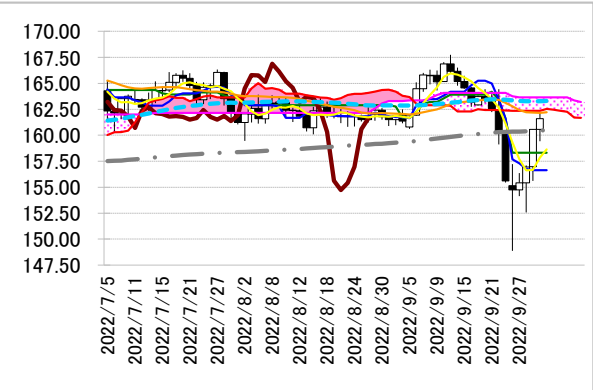


### <ユーロドル＝低下した転換線を支持に押し目買いスタンス>

小陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けており、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、2手連続陽線で上昇後、孕み線で反落したものの、転換線を上回って引けており反発の可能性が示唆されている。

本日は、0.97ドル半ばまで低下した転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.0093(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	0.9802
サポート 1	0.9757(日足一目均衡表・転換線)

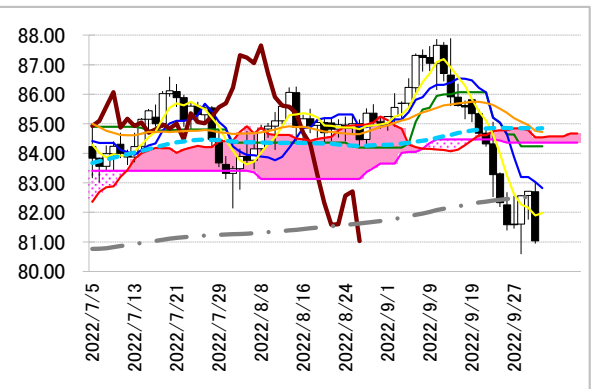


### <ポンド円＝9/29 高値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、4手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けており続伸の可能性が示唆されている。

本日は、9月20日の高値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	162.54(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	161.61
サポート 1	160.60(9/29 高値)



### <NZドル円＝下向きの転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けており、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。3手連続陽線で上昇後、抱き線で反落して転換線を下回って引けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、82円後半まで低下した転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	82.82(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	81.03
サポート 1	80.59(9/28 安値)

